

伏虎中学校跡地活用基本構想概要版(説明資料) 市民会館「(仮称)市民文化交流センター」

現市民会館の課題 1 ～耐震性・老朽化～

- ・現市民会館を使用し続けるには耐震工事が必要 (Is値0.21)
- ・耐震化に加え、昭和54年開館から37年を経て、設備の老朽化が激しく、地下に設置された設備を含め、設備更新に多額の費用が必要
- ・腐食による排水管の損壊、雨漏り、外壁タイルの落下等、劣化箇所の増加



【現市民会館】



【経年劣化によるタイルの落下】



【コンクリート部分の劣化による雨漏り】



【排水管の腐食】

現市民会館の課題 2 ～利用実態～

【利用状況からの課題】

- ・大ホールは、満席での使用が少ない
- ・展示室、練習室の稼働率は高いが、和室、会議室の稼働率は低い

【利用者アンケートやワークショップなどの市民意見】

- ・施設周辺に商業サービス施設等が無いため不便
- ・他施設と競合しない中規模のホール
- ・駐車場が不足
- ・飲食施設等、利用者の利便性を向上させる機能が不足
- ・複雑な動線によるバリアフリー機能の不足

施設の規模 (案)

	現市民会館	市民会館「(仮称)市民文化交流センター」
敷地面積	9,600㎡	6,000～7,000㎡
延べ床面積	18,600㎡	10,000～11,000㎡
施設内容	大ホール	1,406席
	小ホール	656席
	市民ホール	500名
	その他	展示室、練習室、和室会議室等、飲食施設
	屋外施設	
	駐車場	地下38台 図書館・博物館併用150台
		6,000～7,000㎡
		10,000～11,000㎡
		800～1,000席(中ホール)
		400～500席(多目的ホール)
		展示室、練習室(リハーサル室) 茶室、会議室、民間活力を導入した店舗
		市民広場、イベントスポット
		中央駐車場等、既存の周辺駐車場を有効活用

建替の必要性

①施設の必要性

- ・県民文化会館のみでは対応不可(土日祝:右図参照)
- ・市民の需要がある音楽性の高いホールを備えた施設が少ない
- ・市民の発表の場であり、音楽・芸術の鑑賞の場



耐震改修
OR
現地建替
OR
移設

市民会館・県民文化会館の土日祝の稼働率

		24年度	25年度	26年度
市民会館	大ホール	89%	63%	74%
	小ホール	94%	79%	88%
	市民ホール	82%	80%	87%
県民文化会館	大ホール	—	73%	81%
	小ホール	—	90%	95%

②新設の必要性

- ・耐震改修費と建設費(移設)は、ほぼ同等額が必要だが、建替える場合は耐震改修に比べ、有利な国庫補助(都市再構築戦略事業)を活用でき、市の財源への負担を大幅に軽減できる
- ・ニーズに合った規模への建替えが可能
- ・耐震改修には2年の休館期間が必要



~~耐震改修~~
現地建替
OR
移設

③移設の必要性

- ・現地建替えには3年の休館期間が必要(解体+新築)
- ・まちなかへの移設により文化・にぎわいの拠点施設に



~~現地建替~~
移設

市民会館「(仮称)市民文化交流センター」完成イメージ図

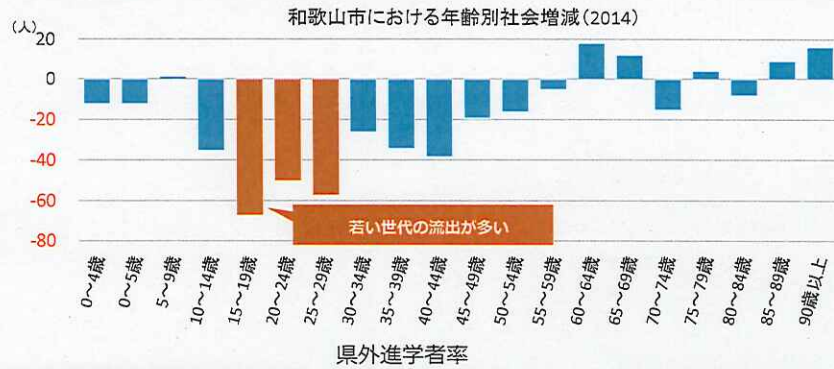


整備スケジュール

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
既存校舎解体		設計	工事				
市民会館「(仮称)市民文化交流センター」	基本構想	基本計画 基本設計	実施設計	建設工事			供用開始 予定
			調査文化財発掘調査				

伏虎中学校跡地活用基本構想概要版(説明資料) 薬学部の誘致

和歌山市における大学の必要性



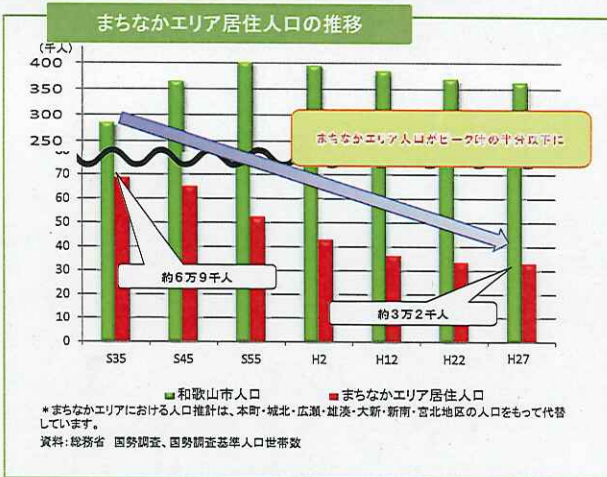
・和歌山市には大学が少ない
 ・約9割が県外の大学に進学
 (県外大学進学率全国ワースト1)

順位	都道府県	県外大学進学率(%)
	全国	56.4
1	和歌山	89.6
2	佐賀	86.2
3	島根	85.6
45	東京	34.6
46	北海道	31.7
47	愛知	28.0

(平成27年度学校基本調査(速報))

資料:住民基本台帳人口移動報告

若い世代の進学と就職を契機とした転出が顕著である



まちなか居住の促進

まちなか居住のメリット

- ・まちなかには高度医療施設や教育関連施設、商業施設などの都市機能が既に集積され、住みやすい環境が整っている
- ・未利用地や空き家など活用することの出来る既存ストックが集積している
- ・大学などの施設を誘致することで「まちなか居住」を促進

伏虎中学校跡地のポテンシャル

- ・歴史・文化の拠点である和歌山城に隣接する本市のシンボルゾーンに立地
 →都市機能の集積とまちなか居住の誘導を行う中心拠点
- ・和歌山市駅・和歌山駅とそれを結ぶけやき大通りという、中心市街地の主要公共交通軸に面しており、周辺に経済や「にぎわい」などの波及効果



伏虎中学校

伏虎中学校跡地に 県立医科大学薬学部を誘致

県の平成28年度予算発表資料抜粋(平成28年2月16日発表)

和歌山県立医科大学薬学部を新設するための調査等に着手

薬学部概要

- 〔学 科〕 6年制の薬学科(薬剤師国家試験の受験資格)
- 〔定 員〕 収容定員600人(入学定員100人)
- 〔設置場所〕 伏虎中学校跡地を活用
- 〔開学時期〕 平成33年4月予定

<スケジュール(予定)>

H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
調査・設計		建物建設			開学

専門性の高い大学誘致の必要性

医療系の大学を誘致することで、若い世代に進学と就職の2つの門戸を広げることにより

若年層の市外流出に歯止め

和歌山市における人材の必要性



現状

- ・医療やサービス分野(介護含む)は有効求人倍率が平均と比べて高い値で推移している
- ・これらの分野は慢性的に人材が不足していると言える

医療分野の担い手が必要

伏虎中学校跡地活用基本構想 概要版(案)

